

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 697
1部60円
友の会会員は会費に含まれています
発行 東京勤労者医療会代々木病院
院長 河邊 博正
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

2025年
11月号

非戦・人権・ケアの倫理について学び、交流

第17回全日本民医連 学術・運動交流集会へ参加

10月10、11日、全日本民医連第17回・学術・運動交流集会が東京ビックサイトで開催されました。集会では、代々木病院精神科デイケア「ハートビートコーラス」がオープニング演奏を披露。また多くの職員も参加しました。集会の参加者からのレポートと感想をご紹介します。

オープニングで精神科デイケア「ハートビートコーラス」の演奏

10月10日、代々木病院 ラヴェル作。4月に練精神科デイケア合唱団 習開始。好きな楽器、フ「ハートビートコーラス」ライパン、お鍋、足踏みは「全日本民医連学術・運動交流集会」のオープニングとして、全国の民医連職員が千人規模で集まる中、三曲の歌を披露しました。一曲目は合唱団による合奏『ボレロ』でも表現でき複数の音で



壇上でオープニング演奏を披露した「ハートビートコーラス」

参加者の声

音楽を完成させる楽しさを実感した一曲でした。二曲目は『花々森山直太朗作』三部合唱、「もしもあなたが雨に濡れ、言い訳出来ないほどに傷付いたなら、せめて私は手を結び風に綻ぶ花になりたい。人は今、大地を強く踏みしめてそれぞれの花、心に宿す」。各パート同士が綺麗に調和をしなれば重厚感はないというプレッシャーの中、本番へ立ち向かいました！そして三曲目はデイケアの定番曲「民衆の歌」レ・ミゼラブルよ

り。観客の方々と共に未来の医療に願いを込めて歌いました。この大舞台を終えメンバーは「楽しそうなイメージが伝えられた」「個性が発揮できた」「この病気は緊張しやすいけど、大舞台という場で苦手なことにチャレンジし、リハビリになった」「一人じゃ踊れなかったけど、みんながいたから出来た」。拍手喝さいを浴びながら退場した彼女らの控室で、の号が出る頃には決着していると思うが、野党連合政権の成立は難しいだろう。自民党の補完勢力と呼ばれながら、うわべ

取り組まれてきたこと、職種連携することで患者・利用者の喜びやQOLが向上した事例などを学ぶことが出来ました。

は「子供の人権と未来を守るソーシャルアクション」に参加しました。志賀信夫先生の記念講演で、選別する貧困対策から権利保障へ、権利に基づいた社会運動によって訴えること、戦いと運動の両輪を同時に進めることが大切だと学びました。社会政策・社会福祉の根本は弱くてもいい、変わっていてもいい、認め合う多様性。さらには弱いや変わっているなどの判断すらないのが理想ではないかと仰っていました。

集会に参加して、全国に同じ志をもった民医連の仲間がいること、繋がりが、絆を改めて感じました。一人ですべてのことは出来ないけれど、一人ひとりが自分の出来ることをしていけば、今抱えている社会の問題を少しずつでも変えていくことが出来るのではないかと思います。

透析室 上條美恵子
開会の挨拶のあと代々木病院精神科デイケア「ハートビートコーラス」による軽快な音楽がホールに響き渡り、「歌うことは生きる事」というメンバーのエネルギーに圧倒され目頭が熱くなるのを感じました。フォトジャーナリストの安田菜津紀さんによる記念講演では、「不条理のそばを黙って通り過ぎない」という言葉がとても印象的でした。今でも紛争地で迫害されている人、被災地に生きる人など様々な形で不条理を強いられる人たちがいます。私たち医療者はその事実としっかりと向き合い、そして私たちに何が出来たのかを考え、不条理のそばを黙って通り過ぎることなく声を上げていかなければならないと改めて考えさせられました。

◆
◆
◆

◆
◆
◆

◆
◆
◆

◆
◆
◆

◆
◆
◆

◆
◆
◆

◆
◆
◆

◆
◆
◆

◆
◆
◆

千駄の萱

9月号で春からの数ヶ月間情勢を書いたばかりなのだが、その後の動きがめまぐるしく過ぐる。石破退陣、自公連立崩壊に伴い勃発した様々な勢力争い。この号が出る頃には決着していると思うが、野党連合政権の成立は難しいだろう。自民党の補完勢力と呼ばれながら、うわべ